2023 年度ものの見方・考え方講座　斉藤日出治　第 3 講　7 月 12 日

第 3 回　記憶技術の産業化と象徴的貧困　１－B・スティグレールの技術哲学

参考文献

原田和広『実存的貧困とはなにか』青土社、2022 年

ベルナール・スティグレールの著作

①『象徴の貧困』ガブリエル・メランヴェルジェ・メランベルジェ真紀　訳」Bernard Stiegler, De la misere symbolique 1 epoque hyperindustrielle,Editions Galilee,2004

②『テレビのエコーグラフィー－デリダ＜哲学＞を語る』原宏之訳、Ecographies d la television,Jacque Dereida et Bernard Stiegler,Editions Galilee,1996

③『技術と時間　1　エピメテウスの過失』石田英敬監修、西兼志訳 La technique et le temps,Tome1,1994,Editions Galilee

④　偶有からの哲学－技術と記憶と意識の話、新評論、浅井幸夫訳、Philosopher par accident,Editions Galilee,2004

⑤『技術と人間 2　方向喪失』石田英敬監修、法政大学出版局 La technique et le temps,Editions Galilee,1996

エトムント・フッサール『内的時間意識の現象学』谷徹訳、ちくま学芸文庫,2016 年、、Edmund Fusserl ,Zur Phanomenologie des inneren ZeitbewuBtseins

一　象徴的貧困、あるいは実存的貧困の発生

１　象徴的貧困から発する犯罪―象徴(市民社会)への襲撃事件

原田和広『実存的貧困とはなにか』青土社、2022 年

スティグレールの貧困概念「自己の喪失と世界からの疎外」73 頁

１）　ジョー・コックス殺害事件

ジョー・コックス－イギリス社会の成功と道徳の象徴「知的な生・・・と感覚的な生・・」を享受し、労働党の庶民院議員になり、象徴(＝共同性)の生産に参加し続ける＝イギリス社会で成功したひとの象徴的存在

このコックスを、52 歳の極右過激派男性が射殺－地域から孤立、失業、精神科に通院－象徴の生産から排除され、社会的な自己を構築できない 76 頁

→　イギリスにおける 900 万人以上(若者、高齢者、子供、身障者など)が孤独と生きづらさを抱えて生きている 74 頁

→　2016 年コックスの遺志を継いで 2018 年「孤独省」が設立され、孤独担当大臣が任命される＝テロ対策―孤独な若者がテロに走る

日本―内閣官房に孤独・孤立担当室―調査、問題対応

２）　リシャール・デュルン

2002 年 3 月 26 日フランスのパリ郊外ナンテール市議会に乱入し、市議 8 人を銃殺　日記「人生でせめて一度、生きていると実感するために、悪事を働かなければならない」スティグレール　20－21 頁、　自分は「存在していなかった」
「市議会という「われわれ」の公的な代表を狙った」スティグレール　20－21 頁
→「ナルシシズムがないと、自分自身へのいかなる愛もなく、したがって誰に対しても敬意をもつことができないのです。それでいて彼には抑え難い存在の欲求・・があった」「苦しんでいる何百万人は潜在的なデュルンなのです」77 頁
個としての存在を奪われる、世界に自分を投企 projet できず、他者が消滅する。→　「われわれ」の消滅、「われわれ nous」が「みんな on」になる
「個人が否定されるのは、個人が単なる消費者になってしまうからなのです」スティグレールー消費者とは、象徴にみずからが参加することなく、もっぱらその受動的享受者でありつづける人格

３）　欧米で類似の事件の多発

①　アメリカ「コロンバイン高校銃乱射事件」1999 年 4 月 20 日いじめを受けた二人の高校生が１２名の生徒と 1 名の教師を射殺、その後自殺
②　貿易センタービル、ペンタゴン攻撃　2001 年
③　ノルウェー連続テロ事件　2011 年 7 月 22 日　オスロの政府中枢部の庁舎爆破、ウトヤ島で労働党の青年 69 名を射殺
④　フランス　シャルリー・エブド襲撃事件　「パリ同時多発テロ事件」2015 年

４）　日本における象徴的貧困から発する犯罪

①　神戸連続児童殺傷事件　1997 年　14 歳、二人を殺害　「ボクがわざわざ世間の注目を集めたのは、今までも、そしてこれからも透明な存在であり続けるボクを、せめてあなたたちの空想の中でだけでも実在の人間として認めて頂きたいのである。それと同時に、透明な存在であるボクを造り出した義務教育と、義務教育を産み出した社会への復讐もわすれてはいない」
　自分はこの社会で「実在の人間」としてみとめられていない、自分を実在しない透明な人間にしているのはこの社会自身である、社会への攻撃　→　社会の象徴としての児童が攻撃の対象となる＝自己自身、一種の自傷行為
②　秋葉原無差別殺傷事件　2008 年　秋葉原というオタクの聖地
③　黒子のバスケ脅迫事件　2012 年　アニメ作品「黒子のバスケ」
④　2014 年 5 月 25 日岩手県滝沢市での握手会ののこぎりで AKB48 メンバー二人に切りつけた 24 歳男性＝象徴への攻撃「だれでもよかった」？
「現代社会において、何らかの象徴を生産できないものは、何者かによって生産された偉大な象徴を破壊することでしか、自らの生の実感を得られない」80 頁　AKB48
⑤　相模原障碍者施設殺傷事件　2016 年－「津久井やまゆり園」
「社会の重荷となり、生きている価値のない存在」の象徴としての障碍者施設への襲撃　自

分が社会からそのような規定をされていることに対して、その象徴の襲撃によって自己の存在をたしかめようとする行為
障碍者施設という社会的排除の象徴への攻撃＝自傷行為
⑥　京都アニメーション放火殺人事件　2019 年　「京都アニメーション」
⑦　北新地ビル放火殺人事件　2021 年　「働く人の西梅田こころとからだのクリニック」
⑧　小田急線電車内での傷害事件　対馬悠介 37 歳、女子大生ら 3 人を包丁で刺す
　大学中退、コンビニ・アルバイト　→　万引き　自分だけ不幸で貧乏くじを引いた、若い女性は「価値が高い」「優遇されている」、自分だけ不幸でみんな幸せに暮らしている
⑨　安部元首相の銃殺　山上徹也
政治テロなのか？　ローンオフェンダー＝個人テロ　経済的困窮、家族の崩壊、社会の喪失
→　統一教会への襲撃＝統一教会(韓鶴子－安倍晋三)という象徴の攻撃
⑩　長野県中野市立てこもり事件　2023 年 5 月 25 日 4 人死亡　近所の女性「ぼっちと言われた」、かけつけた警察官
⑪　「ひとを殺してみたかった」殺人事件
・長崎佐世保高校 1 年 16 歳による同級生の殺人
・知県豊川市 17 歳高校生による主婦殺人事件
・会津若松高校生による母親の頭部切断事件　2007 年 5 月 15 日―母親の首をのこぎりで切断、「誰でもいいから殺そうと思った」
　→　新しい尊属殺人―家族という親密圏の象徴機能が衰弱することによって生ずる市民社会現象としての殺人
名古屋女子大生タリウム殺人事件－2014 年高齢女性の殺害
↓
関連するもうひとつの社会意識
① 若者は「個性的である」ことを嫌う＝集団から排除されることの恐怖　→　「社会の昆虫化」
② 日本の子供は自己肯定感が著しく弱い
↓

２　「集団的個体化」の衰弱

　原田の結論とそれが提起する課題
これらの事件に共通するのは、「「集団的個体化」に失敗し、深刻な自己の喪失状態にあるときに社会的排除の対象となり、結果、「実存的貧困」或いは「絶望的貧困」に陥った者たちが引き起こした事件である」81 頁
〈実存的貧困の社会現象〉
　　自己喪失、自己の不在
　　自己を確証する集団(親密圏)の衰弱
　　市民社会の衰弱と市場社会の肥大化

政治社会における民主主義の後退とポピュリズムの台頭
情報やイメージの膨張―「超デジタル世界」→　情報を判断する能力の衰弱
社会不安、相互不信
社会的排除、ヘイトスピーチ、ヘイトクライム、いじめ

井上達夫『現代の貧困―リベラリズムによる日本社会の貧困論』岩波現代文庫、2001 年、2011 年
いわゆる経済的な貧困とは異なる貧困現象について、リベラリズムの立場から日本社会を論じた。
①　関係の貧困―異質な生の在り方との出会いの不在、「異質なものが競合し共生する〈関係の豊かさ〉」の不在
②　共同性の貧困―会社主義という共同秩序(中間共同体の強制力)の再編による過労死の増加―会社主義の呪縛
③　合意の貧困―コンセンサス神話の崩壊、コミュニケーションの途絶現象、家族・地域などの「幼児期からの社会化の場」が崩壊　→　会話型社会の創造に向けた提言
↓
貧困症状を社会的病理現象として追究する研究の不在
井上『現代の貧困』は、象徴的貧困とかかわりはあるが、自己の喪失という貧困の根源にふみこんでいない
→　ひとが個体的存在になるのはいかにしてか？という原理的な問いが必要

二　ひとはいかにして個体化するのか？

―　マルクス市民社会論における個体の発生史的考察

1　ブルジョア社会と領有法則の転回－労働所有論にもとづく個体化理論

マルクス―私的 private 所有概念の批判を通して個体的 individual 所有概念を発見する　→　個体的所有の再建としてのコミュニズム
ジョン・ロックの労働所有論
『統治二論』－「自然状態」の自然権としての所有権
ひとは「自らが適当と思うままに自分の所有物や自分の身体を処理することができる完全に自由な状態である」邦訳 296 頁
「人は誰でも、自分自身の身体に対する所有権をもつ。・・彼の身体の労働と手の働きとは彼に固有のものであるといってよい。・・この労働は労働した人間の疑いえない所有物である」305－306 頁
↓
資本主義における領有法則の転回－カール・マルクス
第 24 章いわゆる本源的蓄積、第 7 節資本制蓄積の歴史的傾向

自己労働にもとづく私的所有－小経営、土地と生産手段に分散、労働者の収奪

↓――――資本蓄積過程＝剰余価値(他人の不払い労働)の資本への転化

他人労働にもとづく私的所有―労働の社会化、土地と生産手段の社会的利用

↓　　収奪者(資本家)が収奪される

個体的所有の再建

『資本論』全編が、この命題を私的所有の運動の構造的な展開として論ずる

生産活動としての所有－人間と自然の物質代謝過程

社会関係行為としての所有－交通形態＝交換、流通

社会的承認としての所有－法、意識、宗教、学問・・・

個体的所有の再建―『資本論』を階級形成論であると同時に個体形成論として読む必要

「資本主義的私有 propriete privee は、自己労働に基づく個別的な私有の第 1 の否定である。しかし、資本主義的生産は、1 種の自然過程の必然性をもって、それ自身の否定を産み出す。それは否定の否定である。この否定は、私有を再建するのではないが、しかしたしかに、資本主義時代の成果を基礎とする、すなわち、協同と土地および労働そのものによって生産された生産手段の共有とを基礎とする、個別的所有 propriete individuelle をつくり出す」向坂逸郎訳、岩波書店、952 頁

「収奪者が収奪される」という階級闘争は、ひとが個体性をとりもどしていく過程に位置付けられている　→　マルクスは個体性を軽視したり、個体性を階級や集団よりも下位に置いたわけではない、個体性こそがマルクス思想の核心

＝　近代世界において個体は、私的所有の運動の結果において生成してくるもの

２　「総合的な連関のうちにある諸個人」

「われわれがブルジョア社会を全体として観察するときには、社会的生産過程の最後の結果として、つねに、社会そのものが、すなわち、社会的諸連関のなかにある人間そのものが表れる。例えば生産物等々のような、固定的形態をもついっさいのものが、ただこの運動の契機、瞬過的な契機として現れるだけである。直接的生産過程そのものがここでは契機として現れるにすぎない。・・過程の主体として現れるのはただ諸個人だけであるが、ただしそれは、自分たちが生産し、また再生産する総合的な連関のうちにある諸個人なのである」『経済学批判要綱』邦訳Ⅱ・２・501 頁＝「社会的個人」の出現　→←　私的個人

３　Ｐ・ヴィルノ「厳密な個人主義」の理論家マルクス

「マルクスの理論は、…厳密な個人主義、すなわち、個体化の理論として」今日、力あるものとなりうる　パオロ・ヴィルノ『マルチチュードの文法』2001 年

→　新自由主義の個人主義理論に対する根源的批判

個体性ははじめからあるのではなく、協同的で類的な活動の結果として生ずる

「個体性は、普遍的なもの、前個体的なものから発芽するひとつの個体化の最終結果」ヴィルノ 127 頁

言語活動＝類的能力　→　個人の発話行為　→　個体化

斉藤日出治『グローバル化を超える市民社会』新泉社、2010 年

４　ネグリ・ガタリ『自由の新たな空間』杉村昌昭訳、世界書院、

Les nouveaux espaces d liberite,Editions Dominique,1985

「共産主義とは、個人的集合的特異性の解放への道」5 頁

Singularite 「他と異なる、奇抜な、卓越した、狂気につながる奇行、独特な」

68 年は「特異化の歴史的過程に参加しているという自覚的意識」があった。25 頁

↓

所有論次元における個体的所有の再建は、類的能力としての言語活動を通して個体化を実現するプロセスによって支えられている。ところが私的所有の運動の発展は、言語活動を通して個体化を可能にしてきたより深層の次元における個体化を不可能にするような事態をもたらす。意識を、つまり時間の流れを商品化することによって、時間意識において成立してきた個体化が阻止される状況が出来する。

この個体化を可能にする深層の次元にメスを入れ、この個体化の阻止が象徴的貧困という社会病理現象をもたらした、と唱えたのがベルナール・スティグレールである。

↓

21 世紀における象徴的貧困の発生を、労働所有論の次元と時間論の次元の重層的関係において考察する